

製造業のビジネスチャンスが見える
モノづくり最新情報サイト
じゃぱんお宝にゅ〜す
<https://japan.otakaraneews.com>

じゃぱんお宝にゅ〜す

モノづくり現場の未来を見つめる
製造業応援サイト
じゃぱんお宝WEB新聞
最新情報満載！好評配信中！

ゼネテック FlexSim2020新機能

WEBサイトに最新版の新機能を紹介した専用ページ開設！

FlexSim2020新機能

ゼネテックは、同社が国内総代理店を務める、製造工場および物流施設の企画設計や生産性向上・最適化を支援する3DシミュレーションシステムFlexSim(開発元：米FlexSim Software Products, Inc.)の最新版「FlexSim2020」の新機能を紹介したWEBページを開設した。

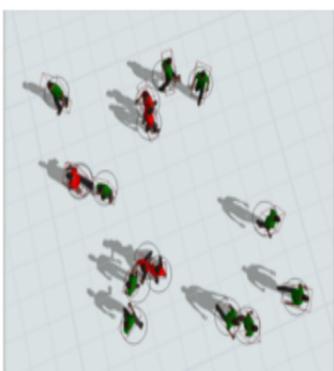
最新版「FlexSim2020」では、DX(デジタルトランスフォーメーション)を実現するための重要な手段である「デジタルツイン」を加速させる機能を大幅に強化した。

また医療分野(ヘルスケア)を含む「人」の動線をより詳細に検証する機能、加えてソーシャルディスタンスに配慮した検証が可能な機能も搭載した。

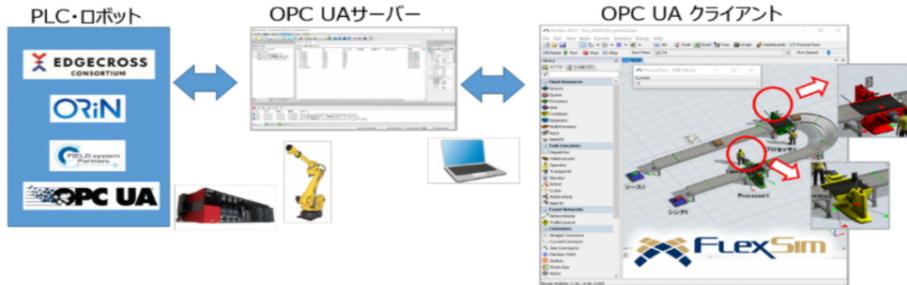
新機能は昨今の感染症拡大の観点から、製造業や物流業にとどまらず、「ヒト・モノ」が動く現場ではDXを推し進めることが喫緊の課題となっており、最新版では数々の新機能とともにDXの実現を強力にサポートする。

エージェント(Agent)機能

FlexSim2020では、ソーシャルディスタンスを考慮したシミュレーションを可能にした。人に対してソーシャルディスタンスの範囲を指定したうえで、人の動線のシミュレーションが行えるようになり、集団行動を行う場合のソーシャルディスタンスを考慮した人の渋滞や動線検証を可能にした。ショッピングモール・医療施設・空港など人が多く集まる施設で感染の影響を排除した動線の検討を可能にする。



ソーシャルディスタンス内に入った回数カウントして感染の可能性の把握



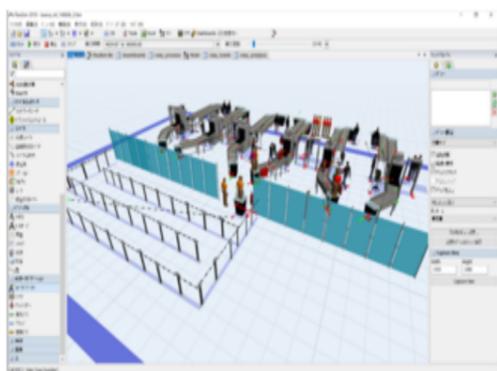
エミュレーションツール (OPC UAへの対応)

FlexSim2020では、新たにOPC UA接続に対応した。これにより、生産現場に設置されているPLCを始めとする様々な機器との接続をより安全に行える環境が整い、PLCやロボットなどの実機プログラムのデバッグや設備の稼働状況の事前検証を強力にサポートする。

また、OPC UA接続が可能になったことで、様々なIoTプラットフォームとの接続が可能になり、DXを実現するための手段の一つであるデジタルツインへの対応がより一層強化された。

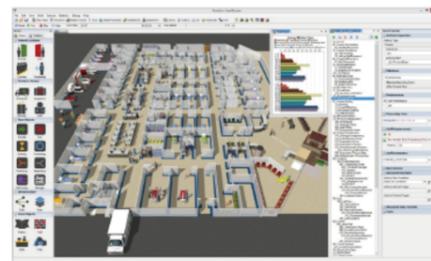
医療分野(ヘルスケア) サービス現場への対応

FlexSim2020では従来の製造工場や物流施設に加え、医療分野を始めとする各サービス現場における人の動線検証を可能にする機能を新たに追加した。空港、病院、大規模商業施設などに適用でき、Agent機能と合わせて使用することで精度の高い人の動線シミュレーションを短時間で作成できる。FlexSimでシミュレーション結果を分析することで、病院などでの業務改善、空港などで滞留を減らすための窓口の



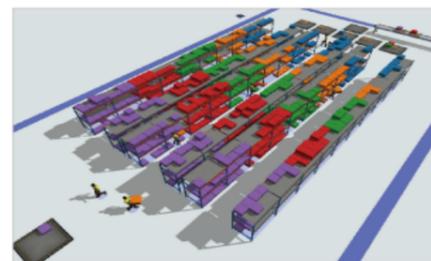
空港のセキュリティチェックで人の滞留状況から開放ゲート数の最適化

最適化、大規模商業施設における運営の最適化を支援する。



倉庫モデリング関連 モジュールの強化

工場内物流 物流倉庫を再現する際には、品物を保管するラック(棚)が重要な役割を果たす。FlexSim2020ではライブラリにラック(棚)モデルが拡充されると同時に、ラックへ品物を配置する際の操作性が向上、より詳細なコントロールを可能にした。



グラフィック機能強化

NVIDIA RTXシリーズのハイエンドグラフィックスカードを使うことで、FlexSim上でリアルな照明や影などの効果を表現可能にした。これにより綺麗



でクオリティの高い描画を用いたシミュレーションを実行でき、見栄えのよいプレゼンテーションを可能にする。

オブジェクトライブラリ強化

人のシミュレーションを再現するのに便利なオブジェクトを多数追加した。人の移動、待機場所、人の行動をサポートする様々なオブジェクトを使用することで、医療施設・オフィス・空港など、人が関わる施設のリアルな再現を可能にする。



FlexSimについて

FlexSimは米国ユタ州のFlexSim Software Products, Inc.が開発する、ハイパフォーマンスなシミュレーションツール。製造ラインや加工プロセス・物流倉庫・マテハンだけでなく「ヒト・モノ」が動くすべての施設のシミュレーションモデルを、非常に軽量な3Dグラフィックを利用して構築し、モノ・ヒトの流れを計算。機械や作業員の稼働率・作業負荷・作業時間など多岐にわたる情報を分かりやすい円グラフや折れ線グラフ(ダッシュボード)を使って一元的に表示する。これにより企業は自社、または顧客の工場や倉庫のボトルネックを発見し、性能を最大化するために必要な比較データを瞬時に得ることができる。

FlexSimはすでに、欧米や中国をはじめとした世界77カ国、累計51,500ライセンス以上が使用されている。

■ゼネテック

URL: <https://www.genetec.co.jp>

■FlexSim 2020新機能

<https://flexsim.jp/news/topic7/>